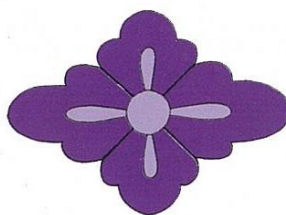




菩提樹

佛さまに育てられる年輪

第6・7合併号 平成19年4月発行



編集・発行
正法寺

山口市江崎
2710

TEL
083-989-2213

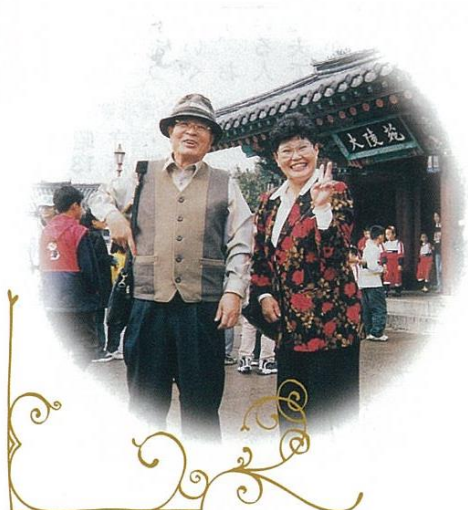
FAX
083-989-5339

感謝…御恩報謝を



特集

第十八世眞城瑞洋住職
第十八世眞城元子坊守



ご往生

第十八世住職・坊守の往生に接して

正法寺住職 眞城 眞信

な言葉があります。

三つは「まさか」。この「まさか」が身の上に降りかかった時は、人は動揺し、自分自身を見失ってしまうのが常でありましょう。大火災による正法寺の消失から約五十年、其の内約四十年間を住職、坊守として、手を携え、正法寺の復興、御法義繁盛に全人生を傾けてこられたお二人であります。かけがえのない人の死ほど、私たちにとって残酷なものはありません。

人間は、元々、生まれることと死ぬことについては、自分でその状況を選ぶことが出来ないように出来ています。どんな状況で生まれてくるか選択できないように、死ぬときも死ぬるように入院生活の末、命の火が次第に小さくなるように亡くなってい

この度の住職と坊守の往生に接して、誰もが「まさか」と思ったのではないのでしょうか。よくお聴聞される方なら誰もが聞かれたことがあるでしょう。人生には三つの坂がある。一つは上り坂、二つは下り坂、そして、

親鸞聖人のお手紙に次のよう

「まず善信（親鸞）が身には臨終の善悪をば申さず、信心決定の人は、疑いなければ正定聚に住することにて候ふなり」この親鸞においては、いつどんな状況でこの人生が終わっても問題ではない、如来の大悲に包まれたものは、正定聚に住すからであるといわれます。「正定聚に住する」というのは、菩薩の仲間に入れていただくということとです。信心決定の人、つまり、「お願いだからまことに疑いなく私の国に生まれるとそう思っておくれ、そして、私の名を称えながら浄土への旅を続けておくれ」という阿弥陀如来の願いを素直に聞きうけ、お念仏の人生を歩み始めた人の前には、凡夫の道ではなく菩薩の道が開かれてくるということです。菩薩というのは、「いのち」の不思議に驚き、感動し、自他の「いのち」を限りなくいとおしむと同時に、「いのち」への責任に目覚めながら、自他のいのちが本当に安らいでいく道を求めるものをいいます。磁石が鉄くずを引きつけ、その鉄くずを磁石化させるように、阿弥陀

如来は凡夫を自らの元に引きつけ、自他共に傷つけ合っていない凡夫を菩薩化させるのです。お念仏が口から零れ落ちている人は、姿は同じでもただの凡夫ではありません。阿弥陀如来から必ず仏に成ることが約束された菩薩道のご真ん中を歩む人なのです。お二人の往生は、「まさか」を私達にもたらしました。しかし、本当の「まさか」は、生きているものが死んでいくところにあるのではなく、死すべきものが生きているということ、また、その身の上に現に働いている如来のお慈悲の中にこそあるというべきでしょう。

- 第十八世住職様事績
- 昭13 眞城正彦住職様・文子坊守様の長男としてご誕生。
 - ・龍谷大学・大学院へ進まれる。
 - 31 正法寺焼失の災禍に遭遇。
 - 34 待望の本堂落成
 - 39 十七世正彦住職様ご往生。
 - 第十八世住職を継職。嘉川保育園園長、高校教師の三役を担う。
 - 41 下関了圓寺様より元子坊守様を迎えられ、お二人で復興と教化に努められる。
 - ・仏婦、仏壯、仏青、若婦人会日曜学校など、充実した組織と活動は、今も続いている。
 - 49 親鸞聖人ご誕生八百年、第十八世住職継職慶讃法要厳修。
 - 53 嘉川保育園舎建設。
 - 58 本願寺即如ご門主ご巡教の引受寺院になる。これを機縁に以後公開講演会を毎年開催。
 - ・本願寺派まことの保育連盟理事、教区・市の保育連盟理事長、協会長として仏の子どもの育成に献身的に努力される。
 - 興進教育会会長も務められる。
 - 平10 社会福祉法人百華児童苑を設立。大内光輪保育園開設。
 - 15 嘉川保育園新園舎建設。
 - 蓮如上人五百回遠忌、正法寺開基五百回忌、本堂山門瓦葺替、門徒会館落成法要を厳修。
 - 16 正法寺本廟を建設。
 - 17 十二月九日、ご往生。

『護り伝えよう!! 念仏の声』

坊守 眞城 明華



この写真は、現在の本堂が再建されたばかりの頃の正法寺の様子です。そしてこの頃が父の住職としてのスタートの時でもありました。『正法寺の復興』これが第十八世住職・坊守に課せられた大きな課題であったことは言うまでもありません。住職は、約二十五年間、住職・園長・定時制高校教諭の三職を勤め、身を粉にして正法寺の復興に心血を注ぎました。また坊守も子育てをしながら忙しい住職を支え続けました。しかし、二人が、あれ程まで



正法寺の復興に心血を注ぐことのできた根底には、同じく正法寺復興の為に奔走されたご門徒のお姿があつたからでしょう。私財をなげうち、身をなげうちご報酬してくださるご門徒のお姿に懸命に応えようとした四十年間であつたと思います。正法寺を襲つた大火災から約五十年、現在の正法寺は、火災直後からは想像できない程の荘厳な姿で、念仏の声を響かせています。その姿が、第十八世住職・坊守を中心とする多くの有縁の方々の血と涙の結晶といつても言いすぎではないでしょう。二人が命を懸けて護り伝えてきたご法義を、私達も命を懸けて聞かせていただき、次代に護り伝えていきたいと思ひます。

ありがとうございました

総代 松村哲男

一昨年の七月二十二日、元子坊守様がお浄土へお還りになり、私たちが門徒一同、その悲しみの去りやらぬうちに、十二月九日ご住職瑞洋様のご往生されました。「生者必滅会者定離」生ある者は必ず死すということをも身をもってお示し下さいました。昭和三十一年十二月、正法寺は本堂をはじめ庫裏や客殿等を全焼するという大惨事がありました。

それから五十年の間、お二人は心一つにして、その復興に尽力されました。本堂の再建、山門の修理、近年は、本堂・山門の瓦葺替え、門徒会館の建設、納骨堂の建設と、正法寺から槌音のしない年はないくらいご多忙な日々でした。寺の復興だけでなく、嘉川保育園の新築、百華児童苑大内光輪保育園の設立。それぞれ園の長をお二人で勤められました。如来様の願いの中に包まれた優しい仏の子を育てる『まことの保育』の浸透に尽くされました。

また、仏教婦人会や仏教壮年会・やよい会・日曜学校・仏教青年会・芬陀利華など、多くの教化団体の育成にも力を注がれ、ご法義の隆昌に努められました。

昭和五十八年には、即ちご門主のご巡教の引受会場寺院として、ご門主ご巡教の榮に浴することができたことを、住職は誇りにしておられました。ご巡教を契機に、地域の人々に宗教的情操を育もうと、日本各地で活躍されている方々をお招きし、毎年公開講演会を開催されています。

平成十六年には、由緒ある吉野の本善寺様より信様の入寺、明華様とのご結婚。式の時の元子坊守様の嬉しそうなお顔、信様と親子で法要のお勤めをされたご住職の喜び溢れるお姿、一昨年誕生されたお孫さん、法響さんを抱かれたときの嬉しそうなお顔は、今でも私の脳裏から離れません。ご法義の隆昌に、寺院の再建に、保育園の子らのために、地域のためにと、心血を注がれたお二人でした。これから私たち門徒一同は、お二人のご意志を受け継ぎ、十九世住職眞信様・坊守明華様をお支えし、正法寺の護寺・発展に微力ながら尽力させていただきます。また、この悲しみをご縁として、ご住職様・坊守様が身をもって示して下さいました、「人生無常のことわり」に目覚め、聴聞に励み、お浄土に往生する人生を送らせていただきたいと思います。

第十八世坊守様事績

- 昭14 下関市了圓寺住職丘俊雄様の次女として御誕生。
- ・音楽の道を志され、国立音楽大学に進まれる。
- 41 正法寺住職眞城瑞洋様とご結婚。坊守として、住職と力を合わせ、焼失10年めの寺の復興教化に努められる。
- ・聖歌隊の指導、仏教婦人会・若婦人会の育成に特に尽力される。日曜学校の運営にも力を注がれ、仏の子どもの育成に努められる。
- 49 長女百華様ご誕生
- 51 次女文華様ご誕生
- 53 三女明華様ご誕生
- 59 裁判所調停委員として、以後、約二十年間ご活躍。
- ・本願寺仏教音楽研究会のメンバーとして本山でもご活躍。
- ・山口教区の仏教音楽連盟の結成にもとくに尽力される。
- 平8 正法寺コーラスグループ「芬陀利華」を発足される。
- 12 百華児童苑大内光輪保育園の園長を努められる。
- ・先頭に立って、夢のある保育園づくりに職員一丸となつて取り組まれる。その成果は今、大内の地で大きく花開いている。
- 16 体調をくずされて入院。
- ・信様、明華様の結婚式に参列される。
- 17 七月二十二日、ご往生。

お二人を偲んで



若婦人会

若婦人会は、三月に発足したことから、やよい会と名づけられました。前住職様前坊守様には、子育てに仕事に忙しい若婦を、いつもやさしく広い心で見守っていただきました。

これからも若婦人会が気楽にお寺に集い、御縁の輪が広がっていくよう、お浄土からお二人で見守ってくださいと思えます。日曜学校で子どもと共に育てたいだいた事をいつまでも忘れずにいようと思えます。

仏教婦人会

いつも、お寺の中を小走りにも走っておられた坊守様のお姿が思い起こされます。仏婦のことをいつも真剣に考えてくださったこと、研修会にご一緒すると、必ずお菓子をもってこれら私どもにくださったり、帰りにはおいしいものをごちそうしてくださったり、行き届いたお心づくしをいただいていたことを思い出します。

コーラスのご指導の時の美しい歌声も忘れられない思い出です。今でもパタパタと走って出て来られるような気がします。



仏教壮年会

仏壮の集いにはいつも仏教壮年の歌を斉唱しています。今はCDで歌っていますが、前坊守様がお元気だった頃には本堂のグラランドピアノで毎回力強く弾いて頂きました。坊守様の上手な演奏と響き渡る素晴らしい和音は、耳の底に今でも深い味わいとして残っています。如来様の前でこの歌を斉唱するときにはいつも前坊守様のお姿を思い出してあります。もう一度坊守様の演奏をお聴きしたいのですが今生では叶いません。お浄土でゆつくり聴かせて頂きましょう。

芬陀利華

元子先生は、山口教区仏教音楽連盟の設立に心血を注がれました。仏教音楽連盟は平成十一年に発足し、以後「仏教讃歌のつどい」が県内各地で開催されることになりました。正法寺芬陀利華も初回から参加しておりますが、元子先生がタクトを振ってくださったのは、平成十三年が最後になりました。舞台上「リラックス、リラックス」とにっこり笑って指揮をされる笑顔が忘れられません。ひまわりのような元子先生の笑顔でした。

嘉川保育園

「仏の子どもを育てる」という強い願いをお持ちで、朝のお勤めでは毎日、子ども達に仏様の話を優しくしてくださいました。いのちの大切さ、いのちのはかなさを我が身をもって、子ども達にお示しくださいました。

楽しい思い出は大運動会で、ゴールで抱き締めて下さったかけっこ、かっこいい行司姿、そしてドキドキした誕生会の手品などです。子ども達の笑顔は何より大切に考えてくださったお心を大切に、伝統を受けついでいきたいと思います。

日曜学校

毎月第一日曜の朝「おつとめ」のあと、仏さまのお話や作法などを子どもたちに関わりやすく話してくださったご住職。ピアノを弾き、仏教讃歌を教えてくださいました。ゲームをして遊んでくださった元子先生。お二人ともいつも笑顔でやさしく子どもたちを迎えてくださいました。

今でもお寺にお参りすると、「よく来たね」と奥から迎えてくださるような気がします。これからも月に一度はお寺にお参りできる日曜学校を大切にしていきたいと思えます。

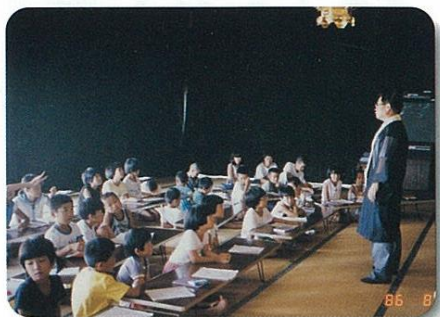
仏教青年会

毎月前住職様から浄土真宗のお話を聞かせて頂いたり、バーベキュー等で、楽しい時間を過ごしたりしました。中でも私達の印象に残っているのが、前住職様がとてもボーリングがお上手でハイスコアを出された事と、前坊守様との初デートが、ボーリングだった事を嬉しそうにお話になった事です。前住職様から教えて頂いた事や思い出を大切に、住職様、坊守様と共に盛り上げていきたいと思います。

大内光輪保育園

仏の光輪きわもなし 大内の園を照らします
光の中に手を合せ いだかれ育つ仏の子
お二人が作られた園歌、その願いは今、大内の地に大きく花開いています。

理事長先生の「どうかのう」のひとは、大きな仏様のお慈悲の心。元子先生の「大きなまゝ」は、生きる力があふれるひまわりのようなお姿。輝くひとみ夢ひらく のびよすなおなやさし
い子 ぼくらわたしの大内光輪保育園



感激の第十九世住職補任式

総代 渡辺礼二



一昨年の十二月九日、第十八世住職瑞洋さまが往生の素懐を遂げられ門信徒一同悲しみの極でありました。

正法寺を開法の道場とし、私ども門信徒をしっかりと支え下さる真信さまが第十九世住職として内外に広く伝承される継職法要を平成二十一年五月三日、四日に修行されるよう計画されており。

本山では、年三回、新任職を対象に、住職補任式が行われています。この住職補任式は、住職としての本分を全ういたし、すという旨を仏前にお誓いし、ご門主さまから任命証が交付される儀式であります。

ご住職真信さまは一月二十九日、三十日に松村総代会長と総代四名を帯同され出席されました。

今回の補任式は新任住職七十八名総代一〇二名が出席されました。補任式に先だち二十九日は開法会館でご院家さまは住職補任研修に、参加総代は別室で宗門の基幹運動、法座活動についてのディスカッションが行われ全体会議で発表いたしました。

翌三十日補任式が総御堂で行われました。新任住職七十八名と代表総代が北海道教区から順に堂内に整列し、静粛な中に、ご門主さまがご臨席になられました。司会者が北海道から順に教区名、組名、寺院名、住職氏名を読み上げられ新任住職と代表総代がご門主さまの前に進み出て任命証が授けられました。

六十六番目にご院家さまのお名前が呼ばれ松村総代会長と二人でご門主様の前に進み出られ任命証が授けられました。私どもは堂の後方に控えての参列でしたが他の方々に比べて最も尊敬であり授与の瞬間感激の涙を催し、ご立派なご院家さまと心強く感じました。

これからは煩惱具足の私ども門信徒にお念仏のみ教えを末永くお導きいただけることを心から幸せに存する次第であります。

新発意・法響様

—どうぞよろしく—

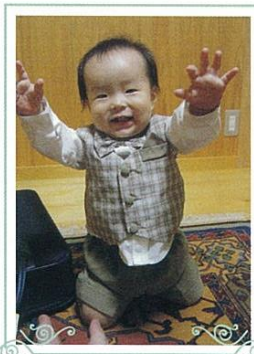


▷平成十七年十月十六日お誕生

法響さんのお誕生そして成長は、瑞洋ご住職様、元子坊守様お二人がお浄土に還られ、心にポツカリと穴のあいた私たちに、新しい力がわいてくるような大変嬉しいことでした。

ご法座などでの法響さんの成長されていくお姿や愛らしいしぐさは、御聴聞をさせていたたくと共に、御参りする楽しみのおひとつになりました。

お若いご住職様、坊守様の



「お法りが広く響き渡るよう」との願いを、私たち門徒もしっかり受け止め、法響さんの成長と共に、ますますご法義が繁盛していくよう努めていきましよう。



成長を願う門徒からのお祝い

「ご懇志に感謝」

・側壁一部改修完成
・本山御懇志等完納

ご門徒の皆様にお願ひしたご懇志のおかげで、懸案であったことを三つ終えることができました。心からお礼を申し上げますとともに、平成二十一年の継職法要に向けて、今後ともどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

○台風や大雨のたびに斜面の土砂が流され危険であった東側の側壁の改修工事が完成しました。まだ残りの部分の状態がこれから心配な面もありますが、今回計画した部分についてはりっぱに改修できたことをご報告申し上げます。○本山から要請のありました親鸞聖人七五〇回大遠忌の御懇志と、山口別院の改修・大遠忌法要への御懇志とともに完納することができました。早期に完納できいづれも教化助成費として多少の返金がいただけることをご報告申し上げます。

※ 会計の詳細につきましては四月の世話人会で報告させていただきます。



山門前の道路整備完成

用地は正法寺などが
無償で提供

長年、道路の幅が狭いためにかと不便であった正法寺の山門前の道路がこのたび拡張されて、市道としての整備工事が終わりました。完成したのは平成十九年三月二十二日。

これは、地元の方々の長年のお骨折りと、前住職様方のご遺志に基づく正法寺からの道路用地の無償提供と、関係の方々のご厚意による用地の無償提供によつてできたものです。

おかげで、これからは、興進小学校の子どもたちの通学路として、また、嘉川保育園の園児たちの通園路として便利になったことはもちろん、地元の方々の生活道路として、いっそう役立つことになりました。

この道を通っていく子どもたちの顔も輝いています。



変遷を見続けてきた

「正法寺参道」

の石柱

新しくなった道路脇の、正法寺前庭の一角に「正法寺参道」と刻まれた一本の石柱があります。「昭和十五年」と表示されているこの石柱は、以来約七十年間、この道を行き来する人々と、この道の変遷を見続けてきました。

その昭和十五年ごろ、二号線の国道も、歩道橋も、ガソリンスタンドもスーパームも何もなく、ただ水田の中の一本道であったころの道は、石ころだらけの、あちこちに水たまりのできた道で、当時の小学生たちは、足もとを気にしながらも元気に通っていたと聞いています。

以来、戦前、戦中、戦後、そして平成の今まで、この石柱は寺参りの人々や行き来する人々の表情を見続けてきました。

私たちは、この機会に、「正法寺参道」と刻んでくれた先祖の願いを、改めて考えていきたいものだと思います。

そして、私たちの子や孫に、この石柱とともに願いを託していきたいものだと思います。

公開講演会

第23回 平成17年10月1日
 講師 菅原 浩志 氏
 (映画監督)
 演題 山口の魅力、心の宝



第24回 平成18年9月2日
 講師 富田 富士也 氏

演題 (教育・心理カウンセラー) コミュニケーションワーカー
 還る家をさがす子供たち



第四十九回山口南組仏教婦人会 大会引き受け

平成18年9月9日
 正法寺仏教婦人会の引受で、山口南組仏教婦人会大会が、開かれました。

『願われてあるこの命』と題して、福岡義朝師による記念法話を頂きました。あたり前が不思議だったと気付く世界を示され、本当の身のしあわせは仏様に遇うこと、そして仏様の願いが届いているから「なむあみだぶつ」が口から出るのでと、お話頂きました。

最後に、法蔵菩薩の話をされ、十人の子どもを持つ母親が、我身は癌でやせ細っても子どもへの幸せを願いつつ、子どもを所を訪ね回る姿を例にお話し下さいました。

山口南組各十五ヶ寺から二百名以上の仏教婦人会員がお参りされ、節目となる第五十回大会へとつながる実り多い大会となりました。



念仏奉仕団

平成18年10月20日
 四十二名が参加した第二十一回正法寺念仏奉仕団は、秋晴れにも恵まれて心に残る三日間をすごすことができました。

大谷本廟にお参りして納骨をすませたあと、二日間にわたる奉仕は、ご門主様の私邸の見えるお庭百華苑の掃除です。草一本もなくするまで、心をこめて掃除しました。

二日めの宿は、以前、前住職様に連れられて来たこともある吉野のホテル辰巳屋。本善寺のご院家様と坊守様を囲んで、心



◁本善寺山門にて

あたたまるとときをすごしました。ご院家様はその後、久しぶりのご実家で一夜をすごされました。

朝、吉野の山々の絶景を心に残しながら、待望の本善寺様に参拝。歴史と由緒を物語る寺院のたたくまいはもちろん、本善寺のご院家様のお話に心をうたれるばかりで、一同、蓮如上人のご苦勞を改めてしのばせていただきました。坊守様や婦人会の方々の抹茶のお接待やたくさのおみやげにもただ感謝です。おたがい、正法寺に集うことのできるよろこびを感じた三日間でした。

第8回仏教讃歌の集い

平成18年7月9日(日)
 スターピア下松大ホール
 指揮 眞城 眞信
 伴奏 原田 和恵
 曲目 生きる
 聖夜
 しんらんさまのたんじょうび



指揮もバッチリ!

あしがき

前ご住職と第6号発行の相談をしていた矢先、突然のご往生で発行ができませんでした。

この度お若いご住職、坊守様を中心に、6・7合併号の運びとなりました。お二人の御遺徳を偲びながら、これからもしっかりと受け継いでいきたいと思います。